

日本工学院専門学校		開講年度	2020年度(令和2年度)		科目名	スポーツ実習1	
科目基礎情報							
開設学科	情報処理科		コース名	システム運用コース		開設期	後期
対象年次	1年次		科目区分	選択		時間数	30時間
単位数	1単位		開講時間	時間割外		授業形態	実習
教科書/教材	レジュメ・資料を配布する。						
担当教員情報							
担当教員	三嶋 秀三				実務経験の有無・職種	無	
学習目的							
学生が最新技術動向を業界のプロフェッショナルから聴講し、見識を広めることを目的とする。ITの技術は転換期にあるため、今後必要とされる人材は、知的好奇心を持ち、興味を持った事柄についてはその深層まで探究することができる人間である。さらに、多様性が求められる昨今、学生とは異なる環境にいる人との交流を持つことが多様な価値観を持つ他者への理解につながる。本講義では学生の知的好奇心を刺激すること、他者に対する想像力、発想力を養うことができる。							
到達目標							
この科目では、習得した滑走技術を駆使し、あらゆる雪質や斜面を安全に滑走できるようになる事を目標とする。初心者とは、両スキーが平行に回転する感覚を身につけ、最終的には初歩的なパラレルターンができるようになる事を目標とする。初級者は、今後の上達に弊害を及ぼすクセを修正し、中斜面でもパラレルターンができるようになる事を目標とする。中・上級者は、一定のスピードで自分の回転弧を自由に調節し、あらゆる斜面でパラレルターンの大回り和小回りができるようになる事を目標とする。また、集団生活により学年・クラスを超えた人間関係を構築する。							
教育方法等							
授業概要	冬季スポーツの特性を活かし、全身の筋肉をしなやかに、弾力的に使いながら、巧緻性や集中力を高める。一方で、授業で習得したそれぞれの滑走技術を駆使しながら、あらゆる雪質・斜面を安全に克服し、スキー・スノーボードの楽しさ、奥深さを実感し、自然・人・体験など多くの出会いを通して、心の豊かさ、生きるための創造力を涵養する。						
注意点	各自、自己のスキルにあったスキー・スノーボードスクールのコースを事前に選択すること。コース選択時に決して無理のないコースを選択するようにし、各コースのインストラクターの指示の元、安全な滑走に努めること。自由滑走時には、必ず数名のグループで行動し、決して単独行動をすることがないようにする。ただし、授業時数の4分の3以上出席しない者は単位として認定することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	0%					
	小テスト	0%					
	レポート	40%	授業内容の理解度を確保するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	40%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画(1回～15回) 1回(2)時間 ※45分を1時間とする							
回	授業内容			各回の到達目標			
1回	事前説明・オリエンテーション			全行程の大まかな理解と個々の目標を理解する			
2回	スキー・スノーボードスクール(1)			各自のスキルに合った到達目標技術の習得をする			
3回	スキー・スノーボードスクール(2)			各自のスキルに合った到達目標技術の習得をする			
4回	自由滑走(1)			スクール時に習った技術を確認し理解する			
5回	自由滑走(2)			スクール時に習った技術を確認し理解する			
6回	オリエンテーション(1)			他者との意見交換をし、技術習得ができてきているかの確認をする			
7回	自由滑走(3)			スクール時に習った技術を確認し理解する			
8回	自由滑走(4)			スクール時に習った技術を確認し理解する			
9回	自由滑走(5)			スクール時に習った技術を確認し理解する			
10回	自由滑走(6)			スクール時に習った技術を確認し理解する			
11回	オリエンテーション(2)			他者との意見交換をし、技術習得ができてきているかの確認をする			
12回	自由滑走(7)			スクール時に習った技術を確認し理解する			
13回	自由滑走(8)			スクール時に習った技術を確認し理解する			
14回	レポート作成			レポートを作成し、理解できたか習得できたかの確認をする			
15回	成果発表			各自この科目にて得た成果などについて発表をする			